

誰にも安全な道路であるために

私たちが普段使っている道路には、ベテランドライバーもいれば初心者ドライバーもいて、自転車や歩行者もいます。高齢者や子ども、ベビーカーを押している人もいます。

そして、怪我をした人、耳が不自由な人、目が不自由な人もいます。いろいろな人が安全に道路を使えるように注意しなければならないこともあります。



当研修センターでは、多様な研修カリキュラムがあり、一般ドライバーだけでなく高齢者・幼児・外国人・耳が不自由な方など様々です。

研修をしていて、難しいなと思うことは、外国人や耳の不自由な方は、目を合わせて話さなければ伝わらないということです。

特に耳の不自由な方は、道路でもすぐ近くの危険に気付くことが出来ません。私たちが電気自動車が近づいていることに気付かないことがありますよね。すぐ近くにきてびっくりすることもあります。耳が不自由な方にとっては、すべての車が電気自動車のようなものだそうです。



耳の不自由な方は、見た目ではわからず、ドライバーは、車の存在をわかっているだろう、気付いて端に寄るだろうと思うかもしれませんが、そうではありません。車が接近してもわからないこともあります。聞こえにくいのかもしれないなと思って、思いやりのある運転をしましょう。



ユニバーサルデザインの取り組みとして小学生の研修などで、バリアフリーについて話す時間もあります。その名のとおりバリアをなくして、誰もが使いやすいものにしていく。これは、道路であっても同じですね。

私たちが怪我をしたりすれば、不自由なことがあります。高齢になれば見えづらい、聞こえづらいこともあるでしょう。そのような時も誰にも安全な道路であれば安心ですよね。



誰にもやさしい道路になるよう、おもいやりとゆとりのある運転をしてくださね